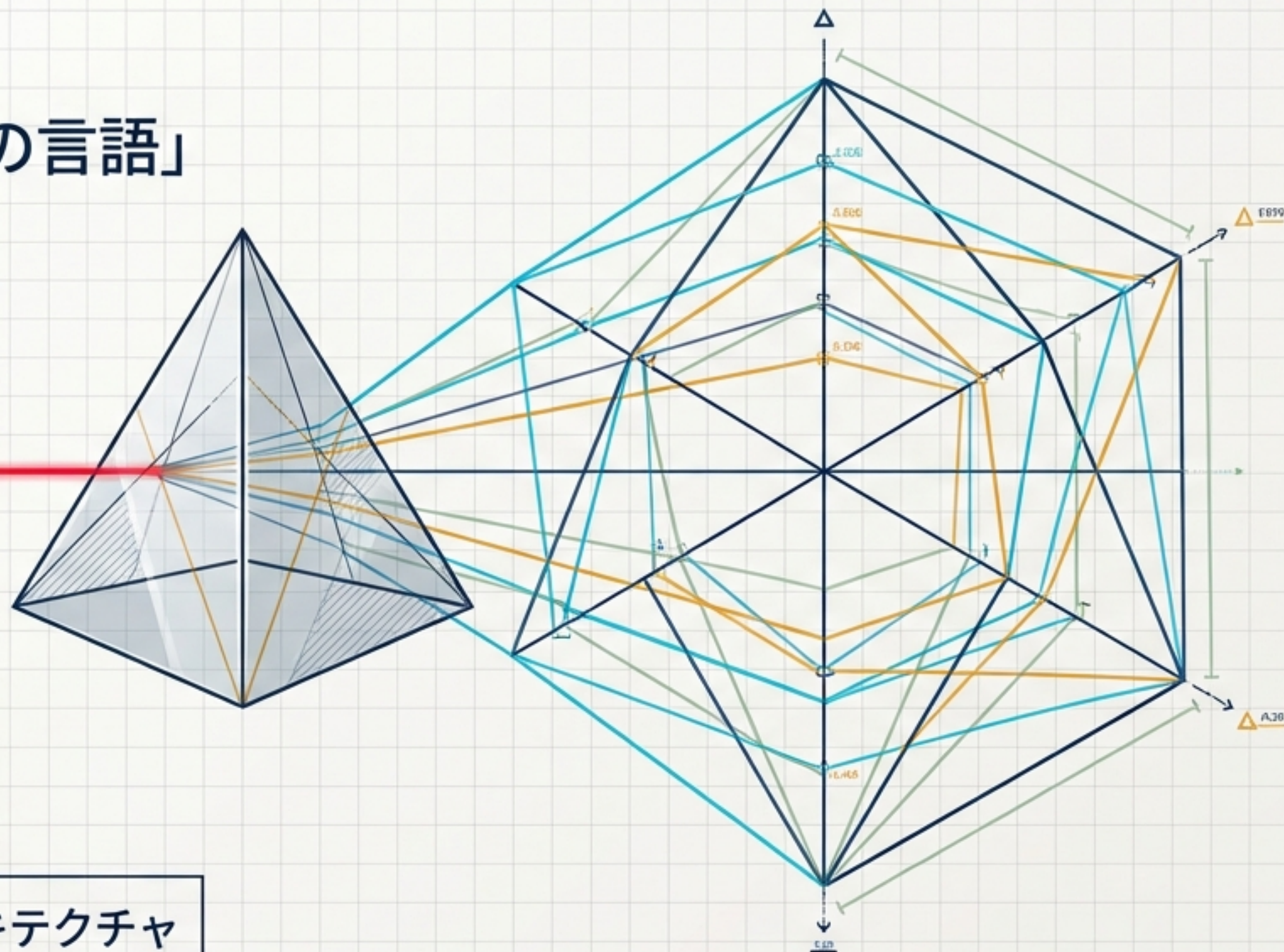
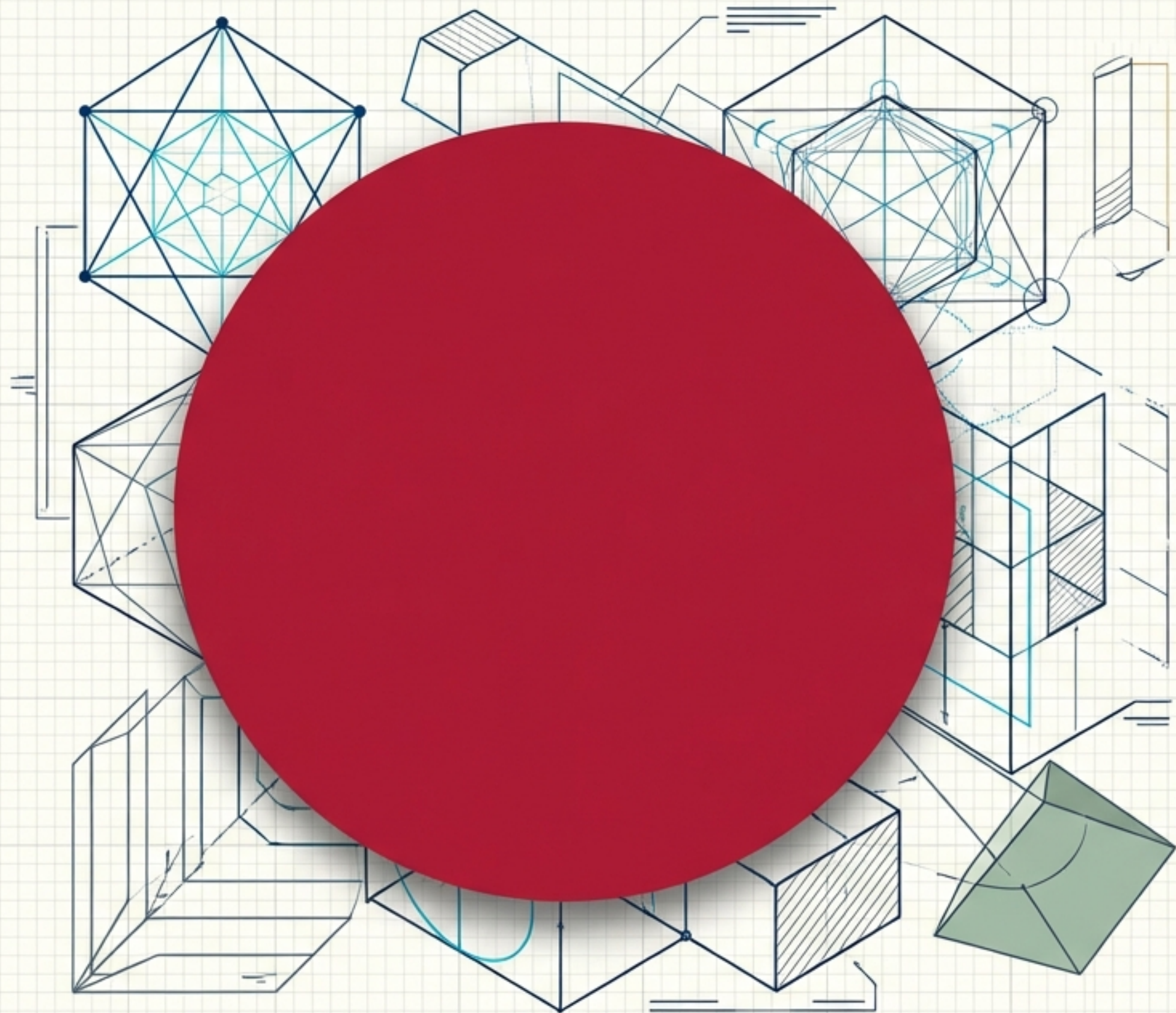


# 束指標

単一指標神話を超える「測りの言語」



構造的な正統性を可視化する新しいアーキテクチャ

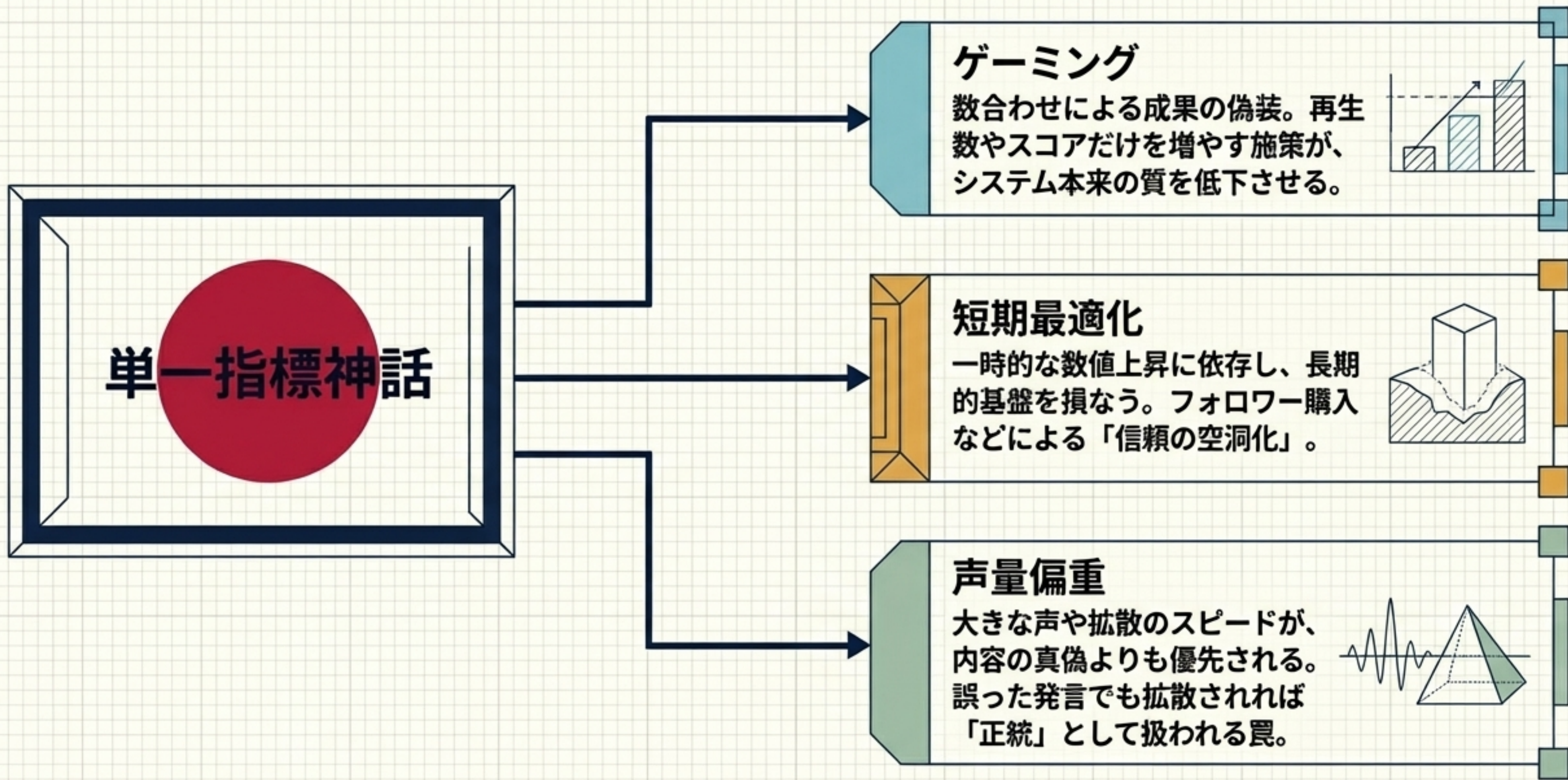


# 数字の大声に 支配される社会



現代は、フォロワー数、PV、ランキングといった「数字の一点突破」によって正統性が上書きされる時代です。

この単一の数値は、明快さゆえに人々の注意を集めますが、現実の複雑な関係性を切り捨ててしまいます。これは合意の成功ではなく、意味の欠損を覆い隠す「数の暴力」に他なりません。

# 単一指標が引き起こす3つの構造的誤作動



# パラダイムシフト：「量の言語」から「測りの言語」へ

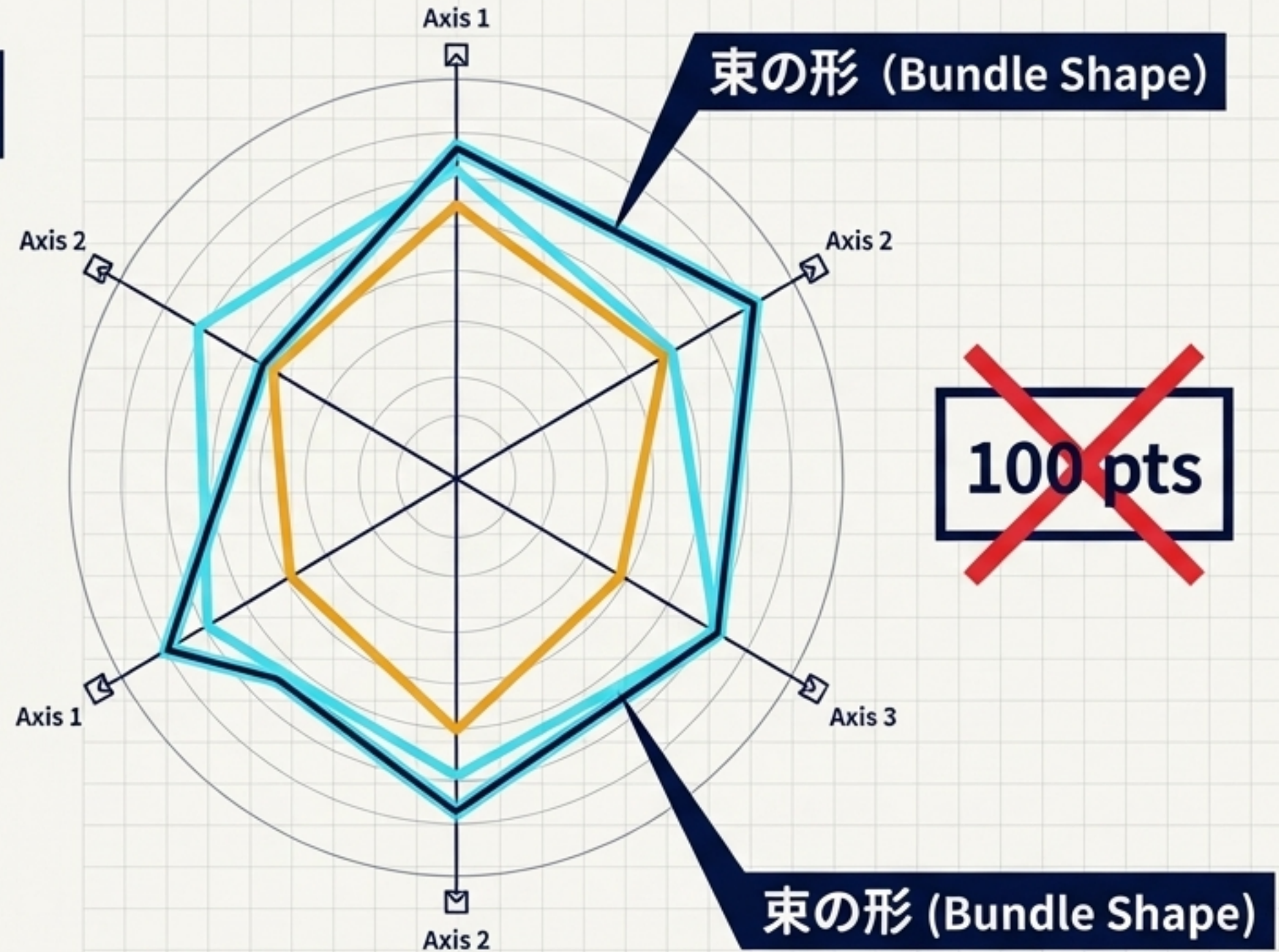
	旧：量の言語 (Quantity) 	新：測りの言語 (Structure) 
評価の対象	単一のスコア・総量	構造的な「束の形」
脆弱性	ゲーミング、声の大きさ、 権威への依存	多軸評価による操作の無効化
時間軸の扱い	スピード至上主義・早い者勝ち	再合意と可逆性（巻き戻し）の担保
構築される社会	比較と監視の秩序	構造的正当性に基づく共鳴

# 束指標 (Bundle Metrics) の定義

数ではなく「束の形」で世界を読む。

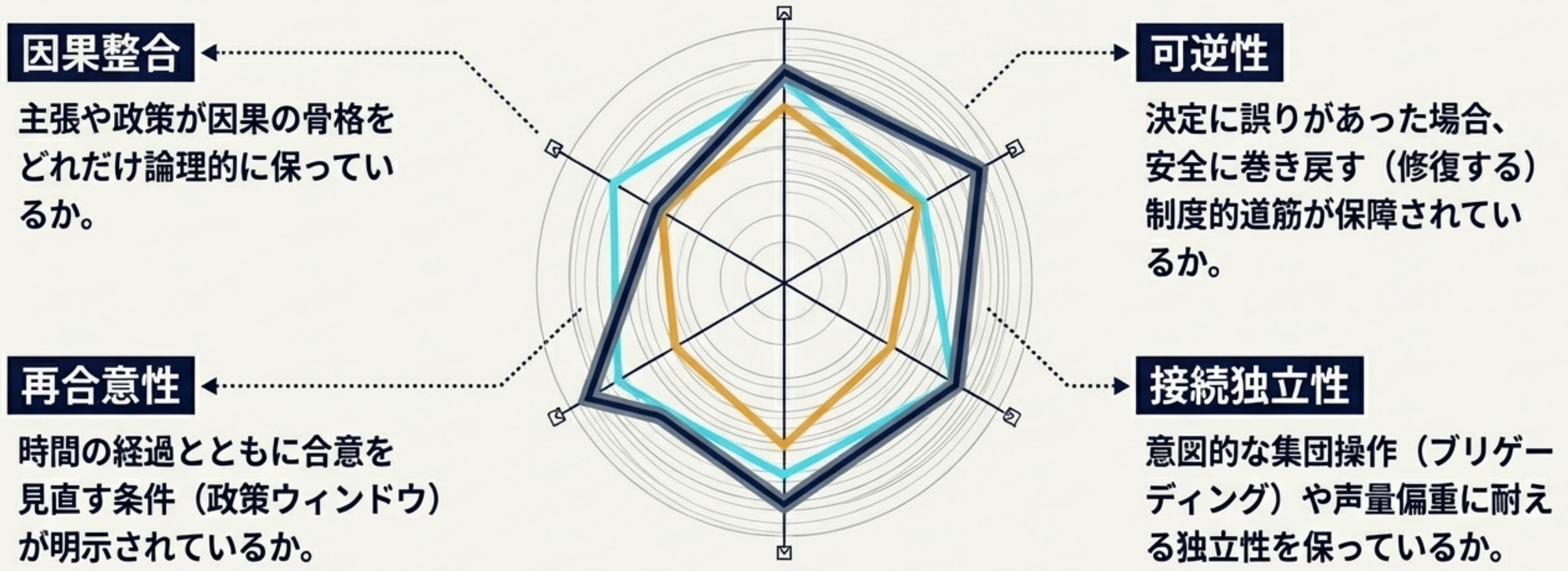
束指標とは、複数の構造的軸を束ねて評価する新しい測り方です。単一のKPIで「総合点」を出すのではなく、多次元のパラメータが描く「形そのもの」を提示します。

これにより、特定の要素だけを操作して制度を歪める「ゲーミング」を構造的に無効化します。



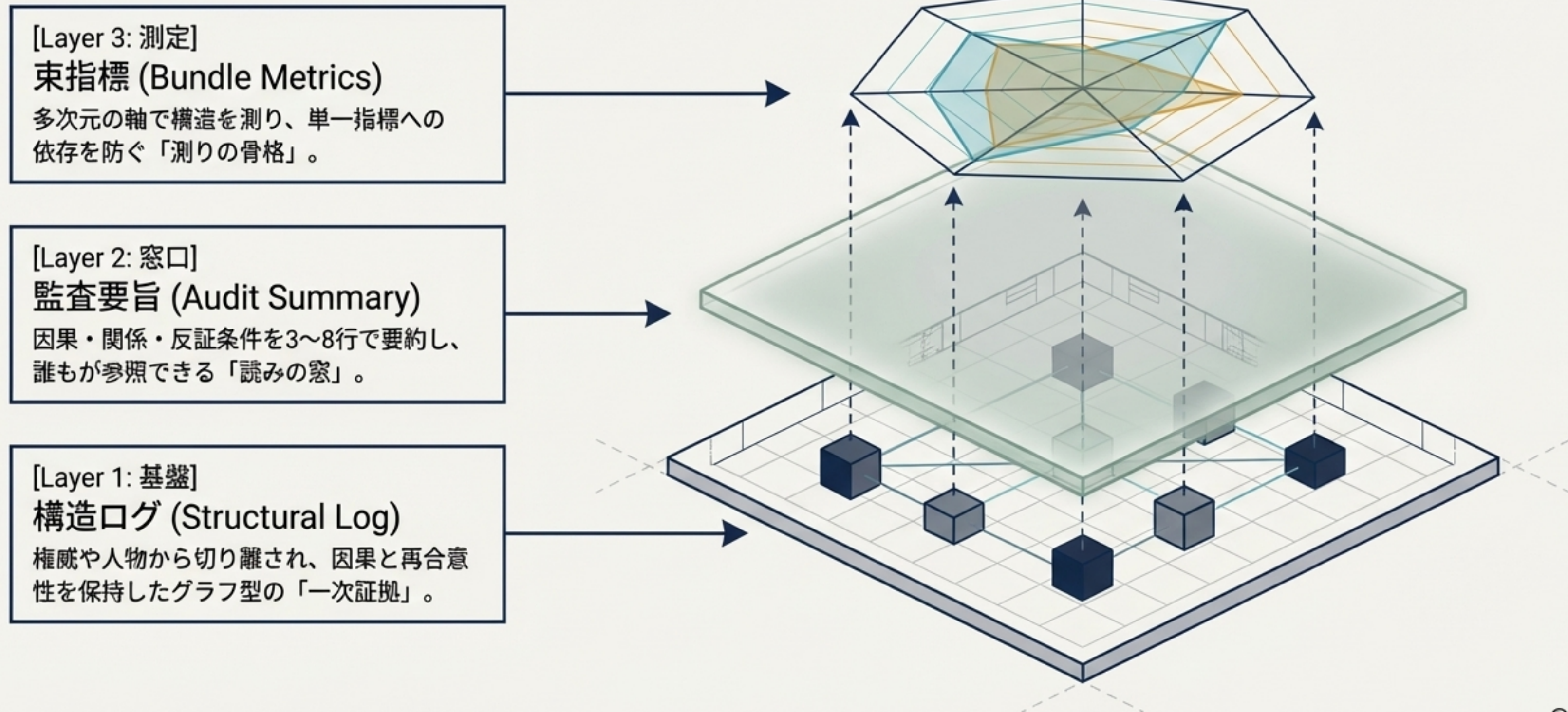
# 束を構成する多次元の評価軸

束指標は、結果の数値ではなく「構造の健全性」を測る以下の軸から構成されます。



# 構造的正当性を生み出す3層のアーキテクチャ

束指標は単独では機能しません。基盤となるログ、それを読み解く窓と連動することで「構造的正当性」が成立します。

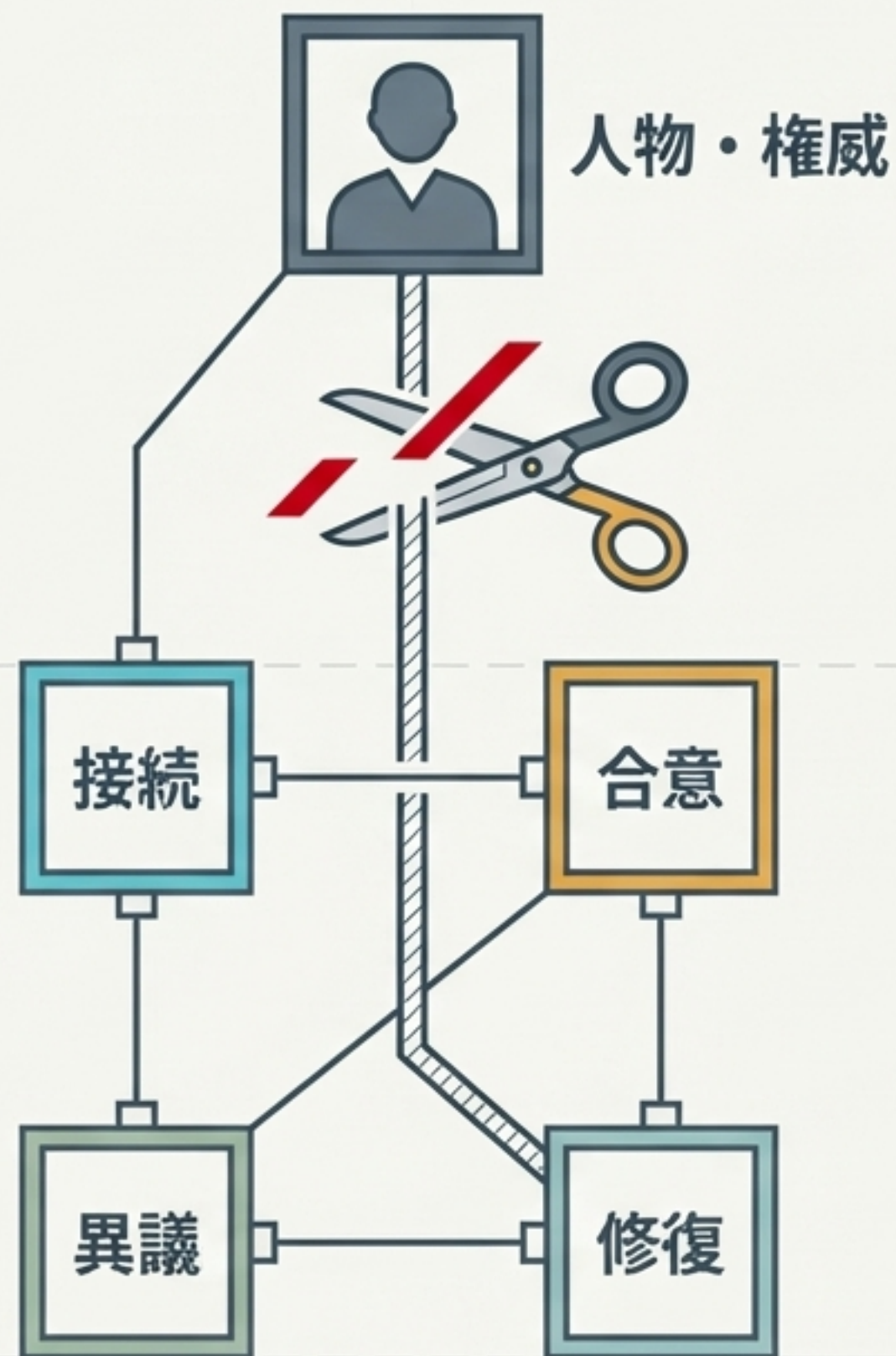


# Layer 1: 構造ログ

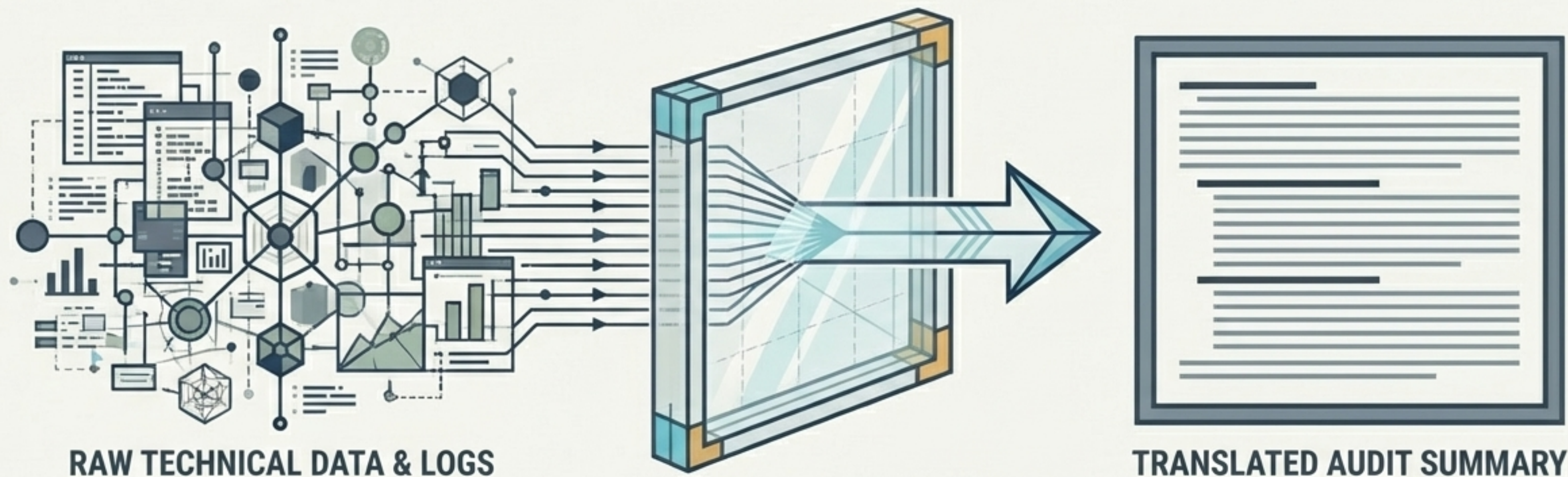
## — 人物依存の切断

構造ログは、単なる出来事のリストではありません。接続・同意・異議・修復・裁定といった行為を「因果関係のグラフ」として記録する時相帳簿です。

最大の特徴は「人物切断度」にあります。誰が言ったか（権威・影響力）から評価を切り離し、構造そのものの妥当性を保証する一次証拠として機能します。



## Layer 2: 監査要旨 — 透明性を担保する「読みの窓」



**[要件]** 監査要旨は、複雑な構造ログを第三者が検証可能な形に要約した文書です。

1. 目的、対象、手法、結果、限界、再現手掛かりを明示する。
2. 300-600字程度（3~8行）の平叙文で構成する。
3. 解釈を固定し、因果の見取り図として外部に提示する。

これにより、社会全体が合意のプロセスを後から検証・再構成することが可能になります。

## Layer 3: 束指標 二層合意の実現

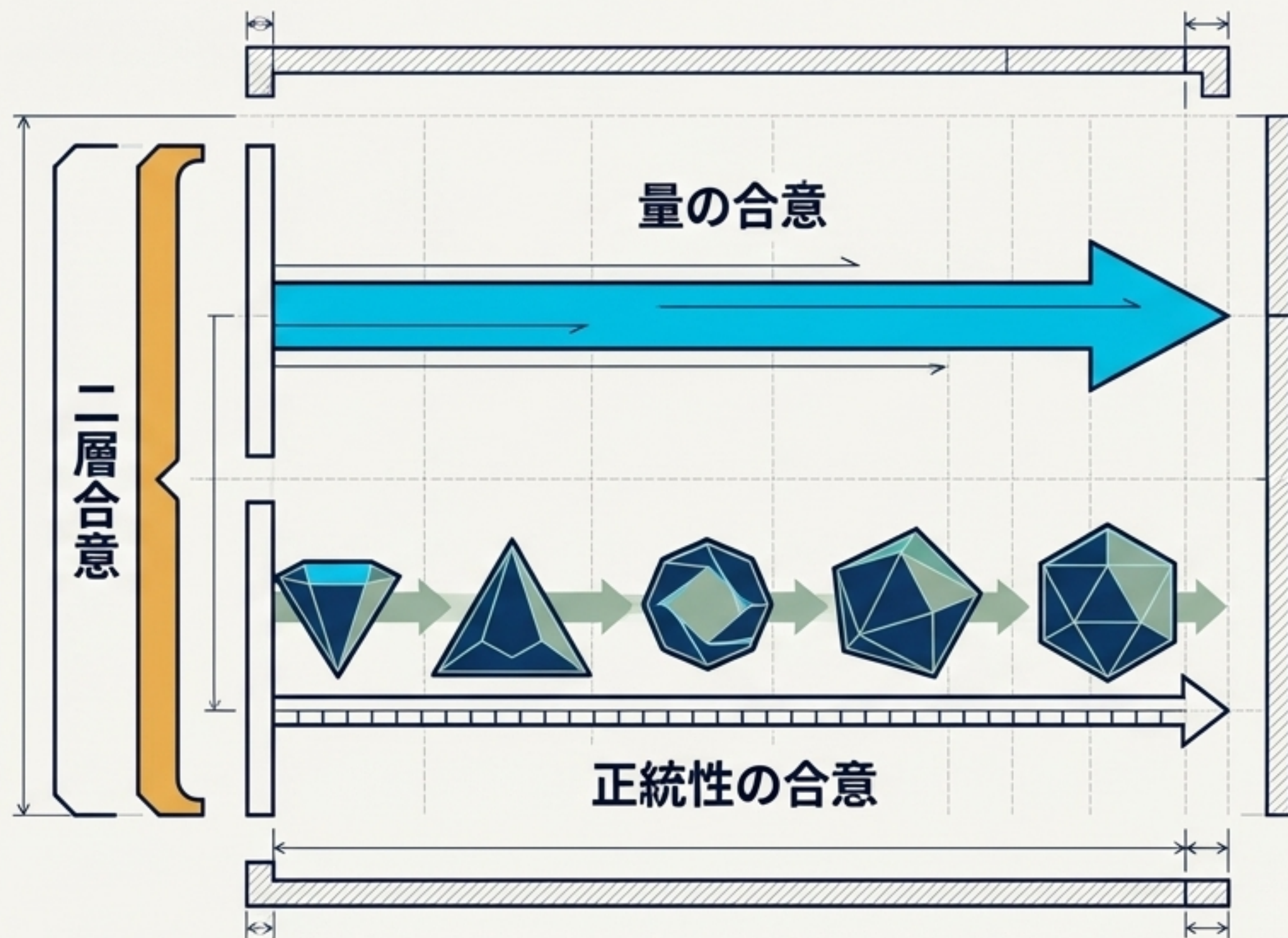
束指標は、監査要旨に「測りの骨格」を与えます。これにより社会は、相反する2つの合意を同時に走らせることができます（二層合意）。

### [量の合意]

スピードを優先し、実務を停滞させない一次的な合意。

### [正統性の合意]

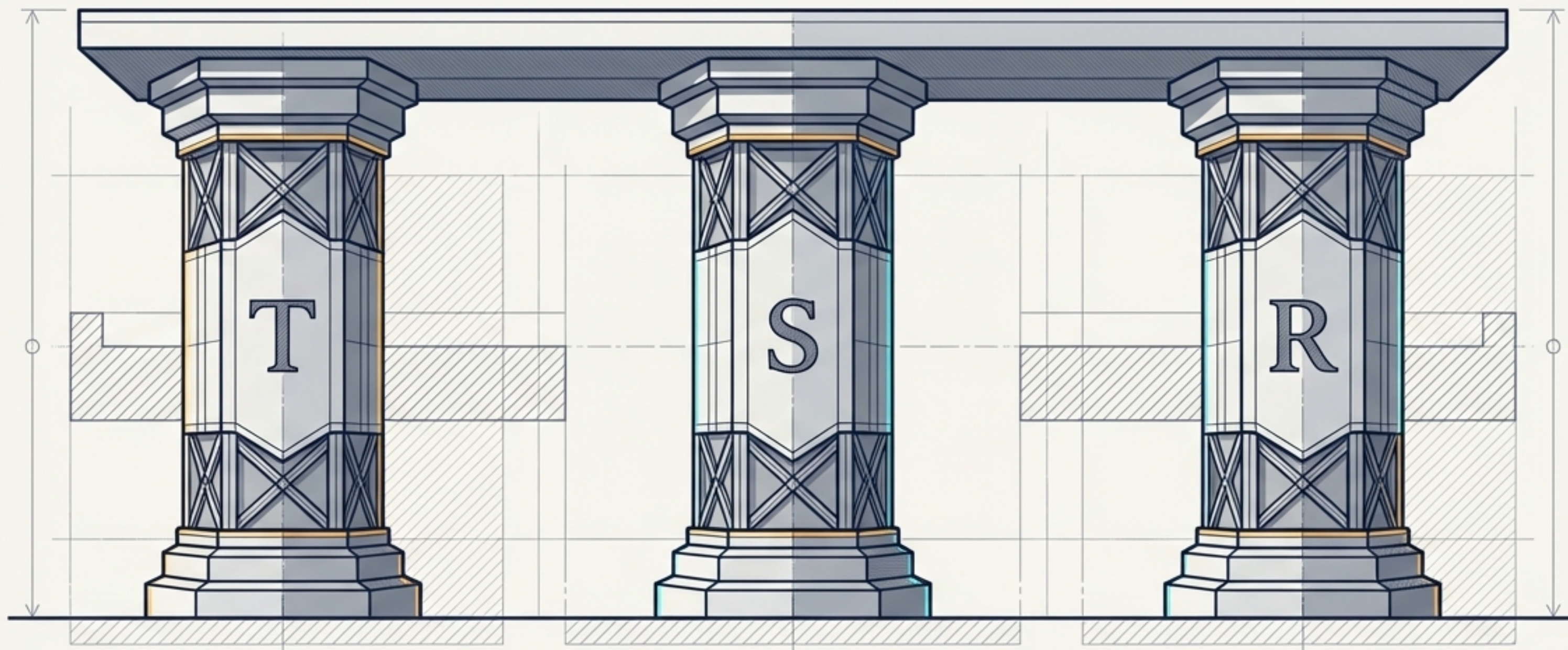
束の形を通じて、因果の妥当性や可逆性を事後的に検証・担保する質的な合意。



「誰が言ったか」ではなく「どの束の形か」で世界を読む視座がここに完成します。

# システムを支える倫理基底：守ったる倫理基底：T/S/R 原則

このアーキテクチャは、操作的なガバナンスを防ぐため、以下の3つの「非強制 (Non-coercion)」の常在条件の上に設計されています。



## [T] 閾値 (Threshold)

排他性ではなく、異質性を安全に受容するための境界と緩衝帯。



## [S] 沈黙 (Silence)

即時反応の過熱を防ぎ、合意の自律的形成を促すための意図的な余白。



## [R] 可逆性 (Reversibility)

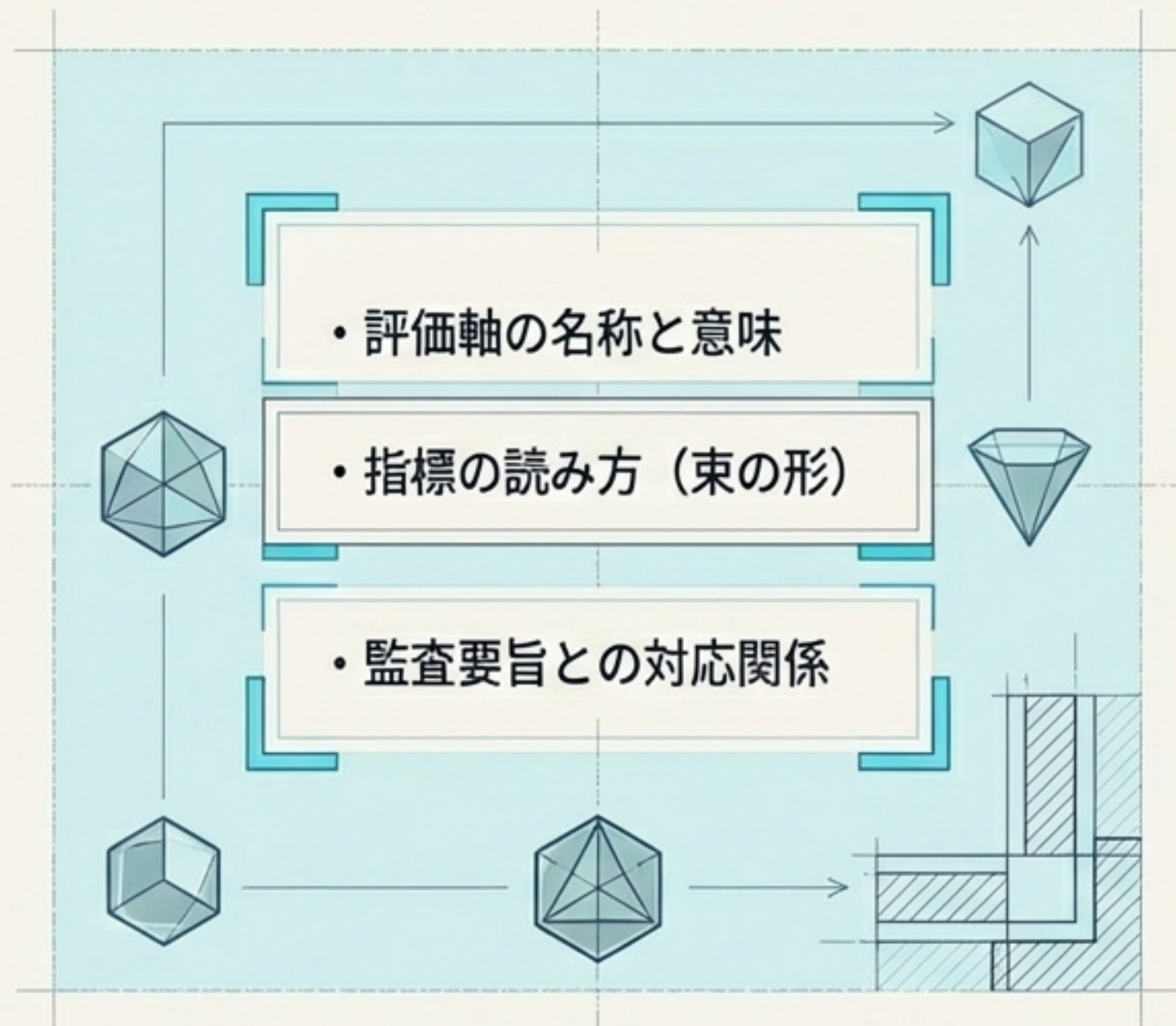
一度の決定に縛られず、誤りを安全に巻き戻し、再合意できる権利の保障。



# 運用ガバナンス：反ゲーミングのファイアウォール

束指標が単一指標と同じ「ハックされる運命」を辿らないよう、公開領域と非公開領域を厳密に分離します。

## [公開領域 (Public)] 透明性の担保

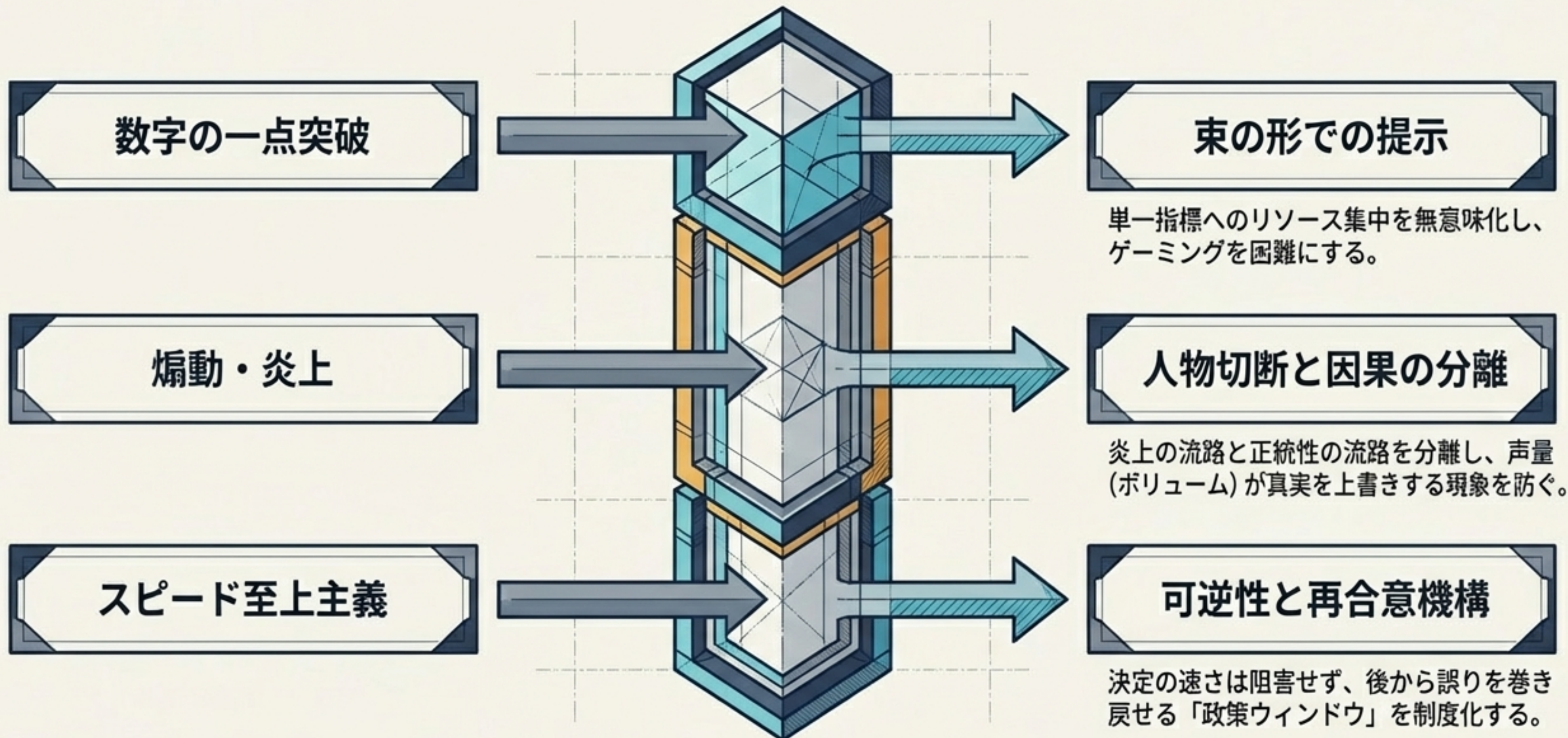


## [非公開領域 (Private)] ゲーミングの防止



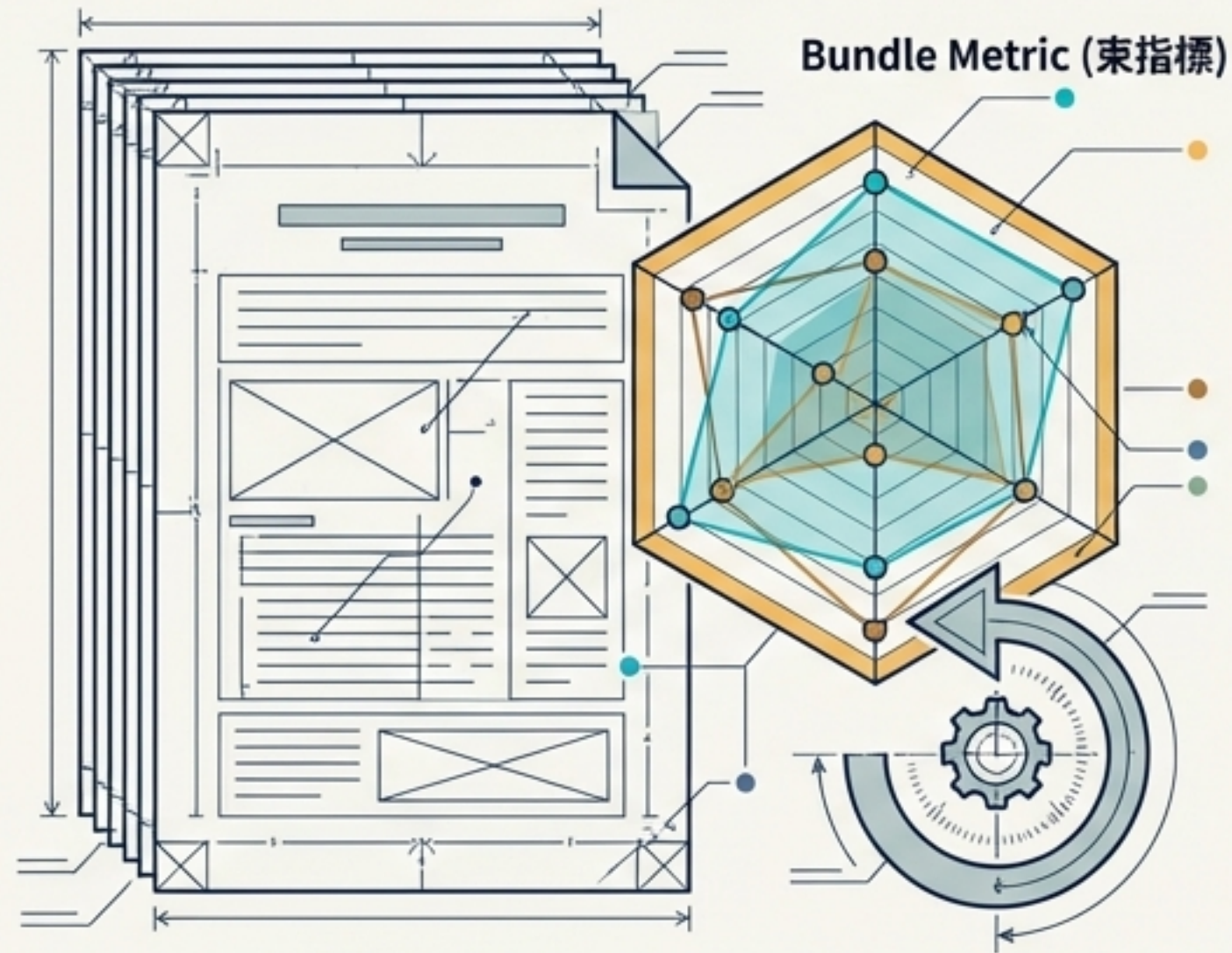
# 誤作動の中和メカニズム

束指標システムは、従来の量的な指標が引き起こした社会のバグを構造的に無効化します。



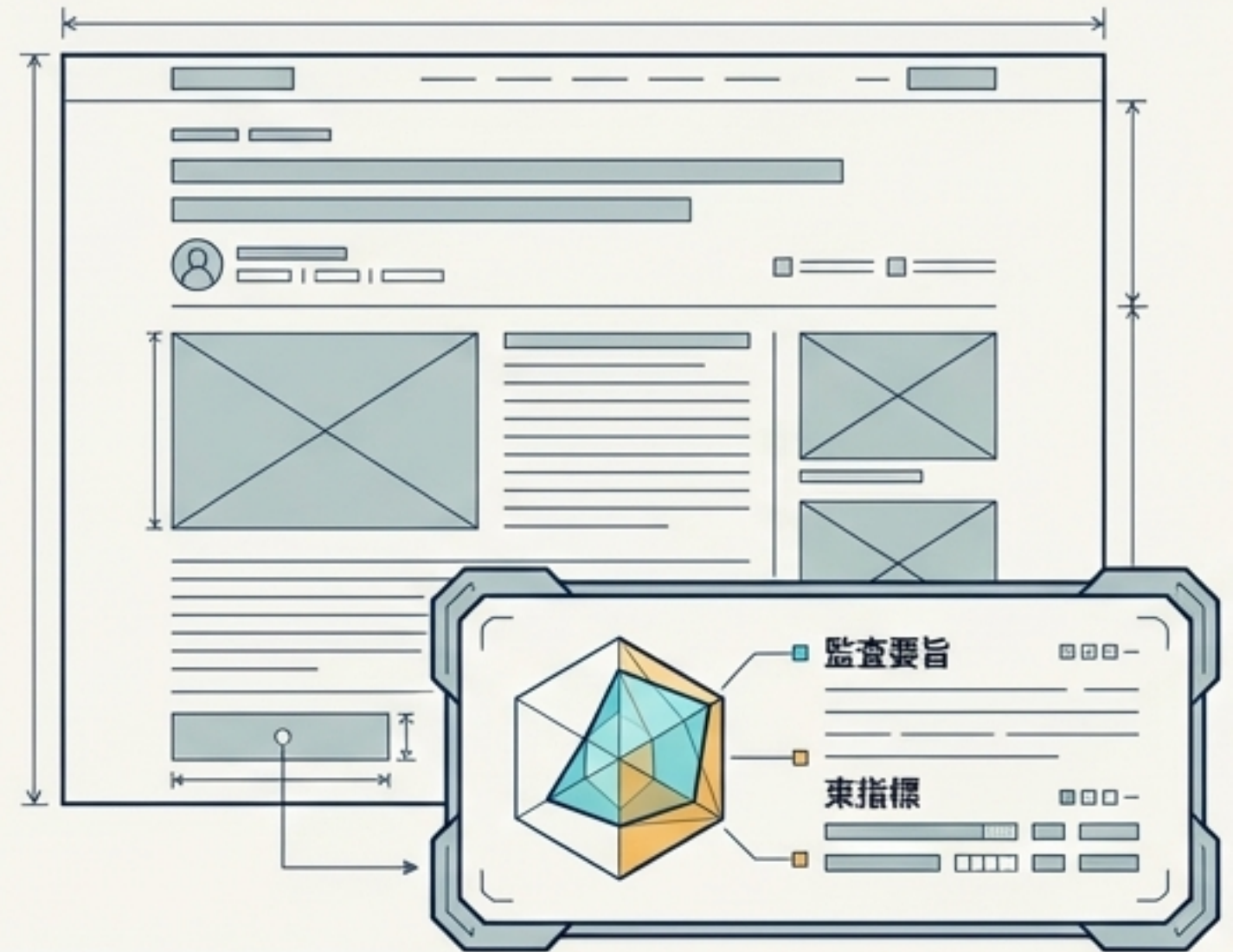
# 社会実装への応用：政策とメディア

## 【政策領域】



法案や提言に「束の形」と「可逆性の条件」を添付する。これにより、一度決まったら変えられない統制ではなく、事後的な再合意（政策ウィンドウ）を前提とした柔軟な政策運用が可能になる。

## 【メディア領域】



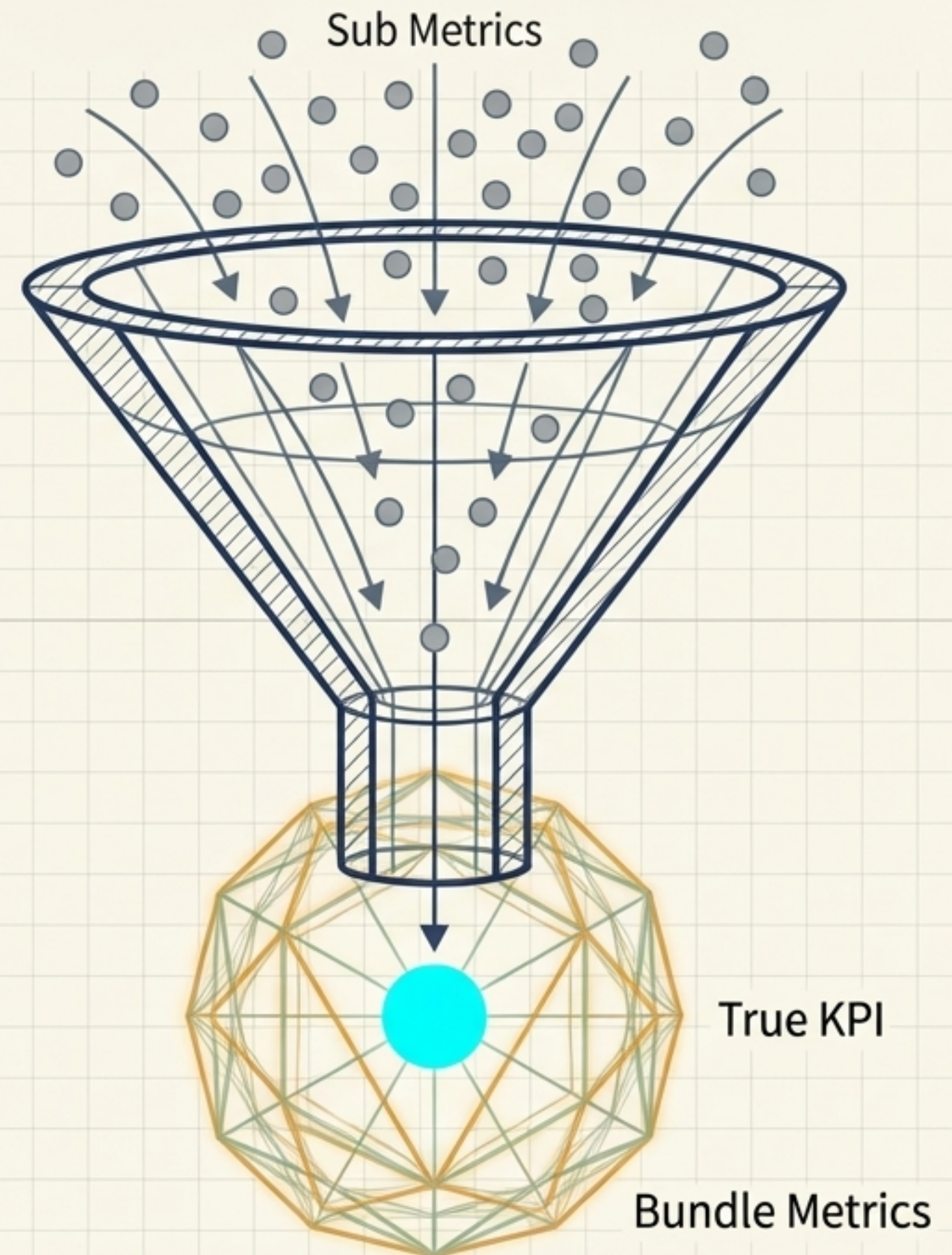
記事末尾に「監査要旨」と「束指標」を提示する。インフルエンサーの属人的な権威への依存を断ち切り、情報構造の正統性そのものを読者が測れるようにする。

# 組織設計への応用：真のKPIと束ガバナンス

組織は「架電数」や「残業時間」といった無数の  
周辺管理指標（Sub Metrics）の罫に陥りがちです。

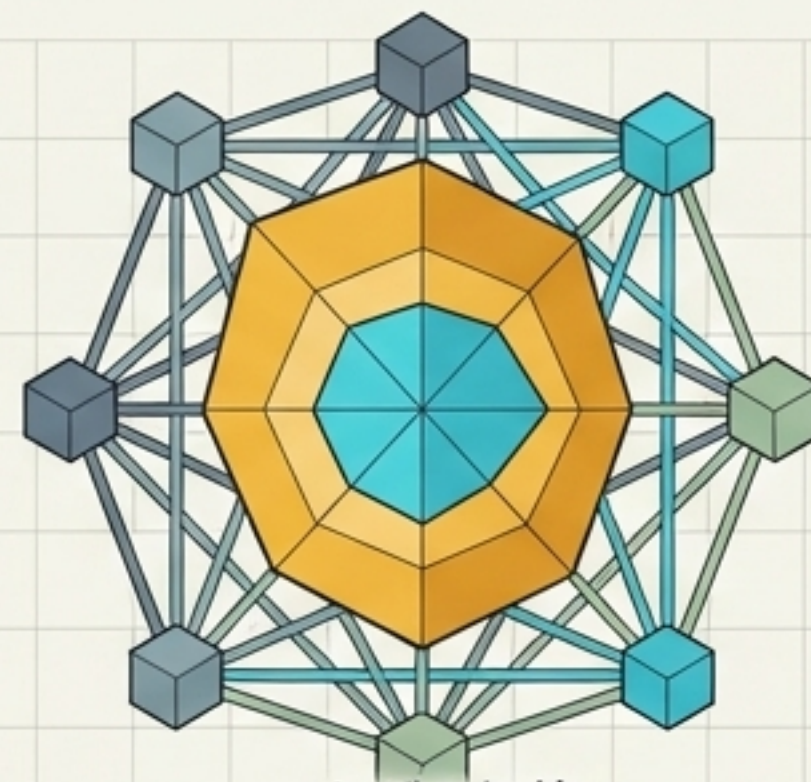
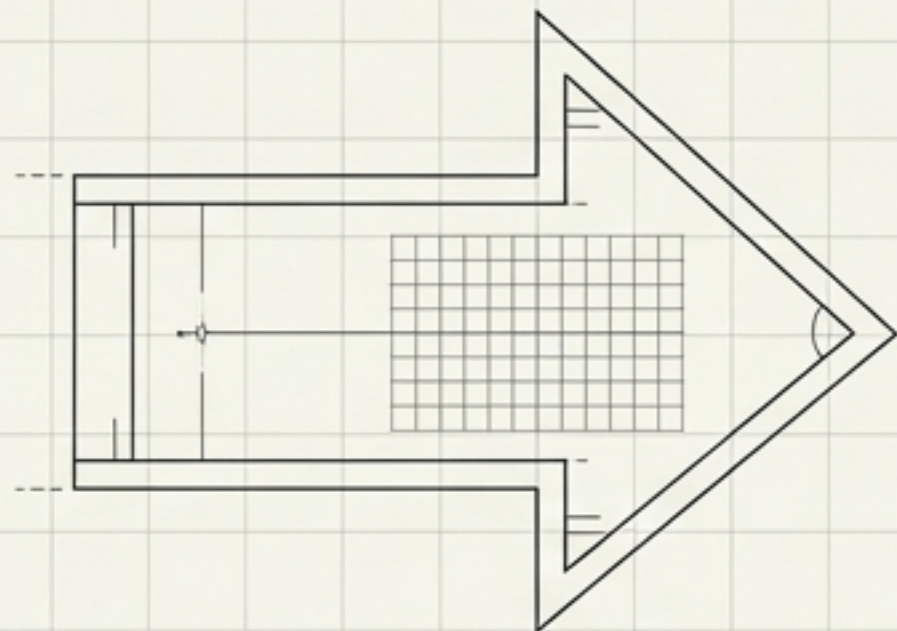
束指標のパラダイムでは、KGIを必達させる唯一の  
因果支点（核点：True KPI）を1~2点に絞り込みます。

そして、その核点に対する極端な最適化（暴走）  
を防ぐための「防衛・監査の面」として、  
束指標（可逆性、再参照率など）を併走させる  
非命令ガバナンスを実現します。





貨幣の価値  
Monetary Value



つながりの価値  
Connected Value

## 究極のビジョン：接続価値会計（Connected Value Accounting）

貨幣で測る文明から、つながりで測る文明へ。

労働需要がAIによって縮小する未来において、社会基盤となる新しい帳簿が「接続価値会計」です。

[接続を測る5つの尺度（例）]

- CDI：有効接続密度
- MAI：再合意生成に要する時間
- RS：離脱・再接続の容易性（可逆性）
- CRI：監査一貫性
- KQI：構造的アウトカムの質的厚み

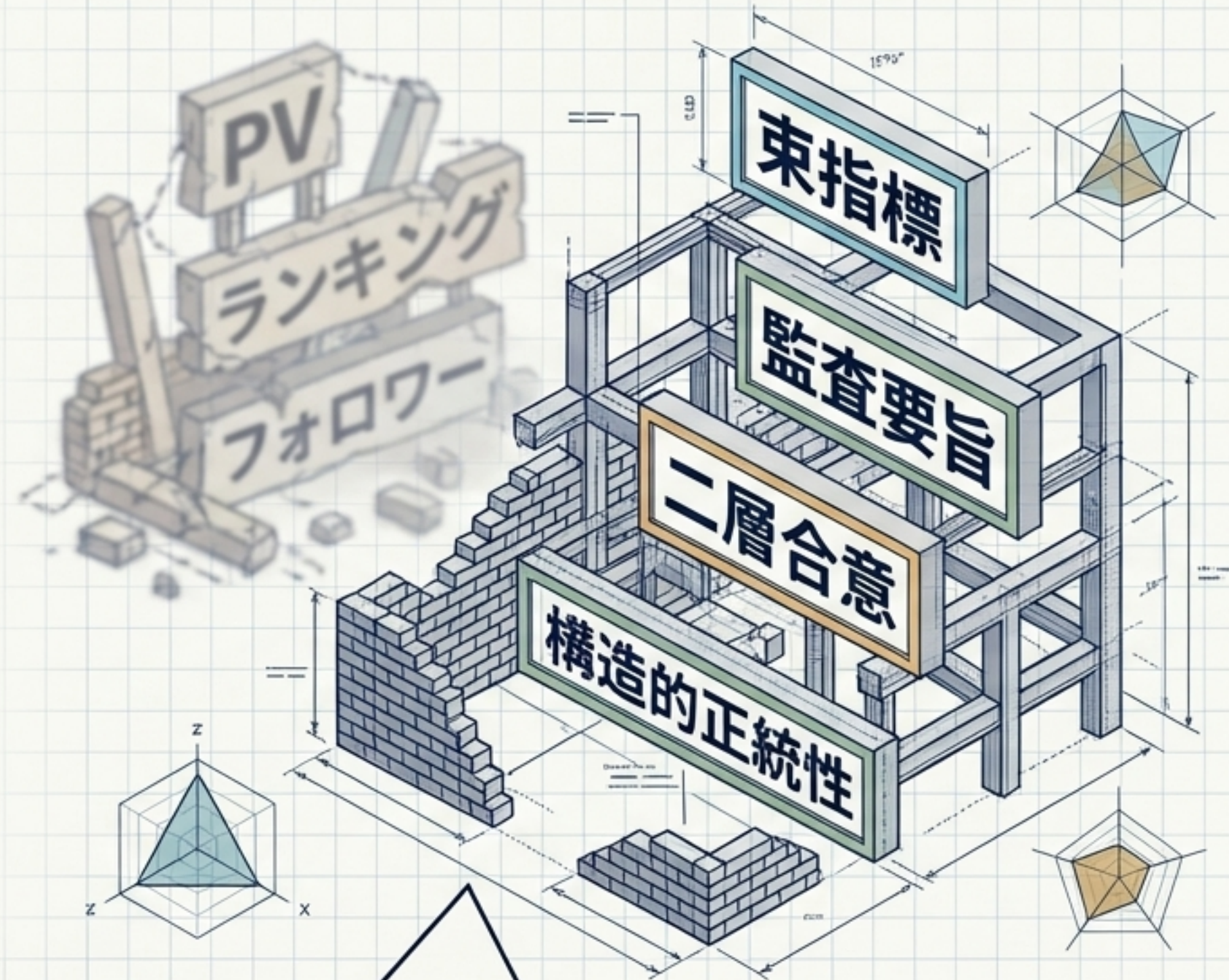
束指標は、この新しい会計基準を動かすためのエンジンとなります。

# 「測りの言語」が未来の社会をフォーマットする

社会が安定するためには、評価と測定のための共通言語が必要です。

「量の言語」から「構造の言語」への転換は避けられません。

束指標、監査要旨、二層合意、構造的な正統性、可逆性。これらの新しい語彙（中川語彙）を制度の前提として固定することで、単一指標に振り回されない、強靱で再合意可能な未来社会の設計図が完成します。



数ではなく「束」で、世界を読み解く。